

Press Release

2014年10月14日
王子ホールディングス株式会社
王子ネピア株式会社
公益財団法人日本ユニセフ協会

トイレと水の問題で失われてゆく命を守りたい ネピア-ユニセフ タイアップキャンペーン

「nepia 千のトイレプロジェクト／第7フェーズ・2014～2015」

～あなたの選ぶネピアが、子どもたちを守るトイレになる～

2014年11月1日（土）～2015年1月31日（土）まで日本全国で展開

王子ホールディングス株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：進藤清貴、以下王子ホールディングス）、王子ネピア株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：清水紀暁、以下王子ネピア）、および公益財団法人日本ユニセフ協会（所在地：東京都港区、会長：赤松良子、以下日本ユニセフ協会）は、開発途上国のトイレと水の問題を改善することを目的として、2008年に「nepia 千のトイレプロジェクト」を立ち上げ、ユニセフ（国際連合児童基金）の東ティモール民主共和国（以下、東ティモール）における水と衛生の活動を支援してまいりました。7年目を迎える本年も、継続実施いたします。

いま世界では毎年50万人を超える5歳未満の子どもたちが、汚れた水とトイレの不備からおなかをこわし、脱水症状などで命を落としているという事実があります。家庭の衛生に携わる商品をお届けする王子ネピアは、世界の「トイレと水の問題」を見つめて本プロジェクトを継続実施してまいりました【参考資料】。

本年、「nepia 千のトイレプロジェクト／第7フェーズ」では、2014年11月1日（土）から2015年1月31日（土）までの3ヶ月間、日本全国でキャンペーンを展開いたします。

キャンペーン期間中の対象商品の売上の一部で、ユニセフの「水と衛生に関する支援活動」をサポートし、アジアで一番若い独立国である、東ティモールを支援対象国として、屋外排泄の根絶を目指します。

内容としましては、農村部の世帯での改善されたトイレづくり、および、衛生習慣の普及と定着のための活動を支援します【参考資料】。活動の詳細につきましては、ウェブサイト(<http://1000toilets.com>)でレポートしてまいります。

また、今年もフォトグラファー小林紀晴氏の写真を起用した、プロジェクト告知パッケージ商品を11月より数量限定販売いたします【参考資料】。販売店様のご協力のもと、店頭を通じた告知活動を行ない、わが国において、世界の「水と衛生の問題」への関心を高め、理解を深めることに努めてまいります。

「nepia 千のトイレプロジェクト」にご賛同いただきましたみなさまの想いととも、東ティモールの子どもたちとその家族の命と健康を守ることを目指します。

<本件に関する報道機関からのお問い合わせ先>

王子ネピア株式会社 商品企画部 大堀 TEL：03-3248-2855

<ご掲載の際のお客様からのお問い合わせ先>

ネピアお客様相談室 TEL：0120-985-041（平日9：30～17：00）

【参考資料】

■ 支援対象国



東ティモール民主共和国



東ティモール民主共和国は、2002年5月に独立したアジアで一番若い国です。人口はおよそ110万人。国土面積は約14,000km²。美しい海に囲まれたこの国は、18歳未満の人口が国民の約55%と若々しい活気にあふれていますが、独立前後の混乱で、もともと乏しかった国内のインフラに激しい打撃を受け、特に、農村部では保健や教育などの基本的なサービスが十分に行き届いていません。ユニセフ「世界子供白書 2014」によると、衛生的なトイレを使える人の割合は、2011年時点で農村部ではまだ27%に過ぎません。

■ 活動の目標

第7フェーズの本年は、ユニセフの水と衛生のプログラムを通して、東ティモールの3つの県（アイナロ、エルメラ、ボボナロ）を対象とした活動で、600世帯の家族やその子どもたちが改善された衛生施設を使えるようにし、屋外排泄の根絶（注1）を宣言する村を増やして行く活動を支援します。

（注1）屋外排泄の根絶：村の全世帯、全公共施設に改善されたトイレへのアクセスがあり、住民全員がトイレを使用していること。また、村に屋外排泄の形跡がないこと。
衛生意識向上の活動に基づき、村を挙げた自発的なトイレづくりで、上記の基準を満たした村が、政府関連機関の認証のもと、屋外排泄の根絶宣言を行います。



屋外排泄の根絶を促す啓発活動



住民主導でのトイレ建設



完成したトイレ



完成したトイレ



ODF（屋外排泄根絶）宣言セレモニー

■ プロジェクトへの参加方法

2014年11月1日（土）から2015年1月31日（土）までのキャンペーン期間中、対象となるネピア商品をお買い上げになるだけで、どなたでもキャンペーンに参加できます。



また、郵便振替での募金でもこのキャンペーンに参加することができます。

◆ 郵便局（ゆうちょ銀行） 振替口座：00190-5-31000

◆ 口座名義：（公財）日本ユニセフ協会

※ 通信欄に「ネピア」と必ず明記ください。

※ 窓口での募金の場合は、送金手数料が免除されます。

郵便振替での募金の場合は、日本ユニセフ協会より領収書が発行されます。（日本ユニセフ協会への寄付金は、特定公益増進法人への寄付として税制上の優遇措置の対象となります。詳しくは日本ユニセフ協会のホームページ <http://www.unicef.or.jp> をご覧ください。

■ キャンペーン対象商品※

ティシュペーパー

ネピアプレミアムソフトティシュ／ネピアネピネピティシュ／ネピア鼻セレブティシュ

トイレットロール

ネピアプレミアムソフトトイレットロール／ネピアネピネピトイレットロール／ネピアロングトイレットロール／ネピアおしりセレブトイレットロール／エムズワンネピアトイレットロール

ポケット／携帯用ティシュ

ネピア鼻セレブポケットティシュ／ネピア鼻セレブティシュ ITSUMO

※対象商品について、一部変更になる場合もございます。

プロジェクト告知パッケージ商品（数量限定）



■ プロジェクトの実績

2008年に開始した千のトイレプロジェクトは、本年で第7フェーズとなります。これまでに、第1～5フェーズのトイレづくりが完了し、アイレウ、エルメラ、リキサ、マナトゥウ、デリ、オエクシ、アイナロの7県に、合計で6,295以上の家庭用トイレが完成しました。また、学校や地域のトイレや給水設備は、合計で36の施設が改善され、安全で衛生的なトイレを使える人の数が増えたことはもちろん、乳児の死亡率、5歳未満児の死亡率などの改善にも貢献しています。

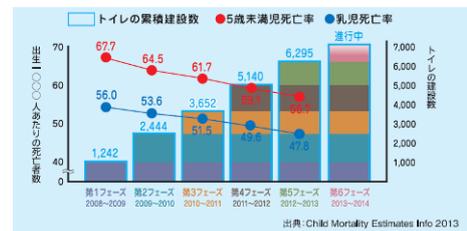
現在は第6フェーズで、20の集落を対象にしたプロジェクトが進行中です。

プロジェクトの実績一覧

プロジェクト実績・進捗	第1フェーズ 2008～2009	第2フェーズ 2009～2010	第3フェーズ 2010～2011	第4フェーズ 2011～2012	第5フェーズ 2012～2013	第6フェーズ 2013～2014
進行状況	完了	完了	完了	完了	完了	活動中
支援対象地	エルメラ県 リキサ県 マナトゥトゥ県 デリ県 オエクシ県	アイレウ県 エルメラ県 リキサ県	アイレウ県 エルメラ県 リキサ県	アイレウ県 エルメラ県	アイレウ県 エルメラ県 オエクシ県 アイナロ県	アイレウ県 エルメラ県 オエクシ県 アイナロ県
寄付総額	20,437,281円	24,413,914円	24,249,587円	10,000,000円	20,051,698円	20,000,000円
家庭用トイレの建設数	1,242	1,202	1,208	1,488	1,155	目標1,000以上
学校や地域のトイレや給水設備の建設、または修復数	18	7	7	1	3	2

※第1フェーズおよび第5フェーズの給水設備の建設には、ユニセフも費用の一部を出しています。

プロジェクトによる家庭用トイレの累積建設数と、乳児死亡率・5歳未満児死亡率の推移



■ フォトグラファー 小林紀晴氏について



【プロフィール】

1968年、長野県生まれ。アジアの旅先で出会った日本人の若者の姿を写真と文章で綴った「ASIAN JAPANESE」でデビュー。多くの若者の絶大な共感を呼ぶ。

「DAYS ASIA」で1997年度日本写真協会新人賞受賞。2013年写真展「遠くから来た舟」で第22回林忠彦賞受賞。日本で最も注目される写真家のひとりとして、次々と意欲的な創作に取り組んでいる。

■ 王子ホールディングスについて

1873年、日本で初めて本格的な近代産業として製紙業を開始した王子製紙は、2012年10月に持株会社制への移行に伴い王子ホールディングスに商号変更しました。当社は創業以来約140年間、生活のさまざまな場で用いられる紙の安定供給を通じて文化に貢献するとともに、森のリサイクル（海外植林）、紙のリサイクル（古紙リサイクル）の推進により積極的に環境保全に取り組んできました。「領域をこえ 未来へ」のスローガンの下、持続可能な社会の実現を目指すため、革新的価値の提供を通じて環境・社会との共生を図り、人類世界の未来へ貢献していきます。

(<http://www.ojiholdings.co.jp/>)

■ 王子ネピアについて

ティッシュやトイレトロール、紙おむつなどを製造・販売している王子ネピアでは、『nepiaQuality』を掲げ、3つの品質【生活品質、環境品質、社会品質】を追求しています。肌ざわりや使い心地（生活品質）の向上はもちろん、FSC[®]認証紙の積極的な採用を実施し、環境保全にも取り組んでいます（環境品質）。

また、社会貢献活動もひとつの品質（社会品質）と捉え、お客さまの想いと共に、様々な団体と協力しながら社会の課題解決への取り組みを展開しています。

(<http://www.nepia.co.jp>)

■ ユニセフについて

ユニセフ（UNICEF：国際連合児童基金）は、すべての子どもの権利と健やかな成長を促進するために活動する国連機関です。現在 190 の国と地域※で、多くのパートナーと協力し、その理念を様々な形で具体的な行動に移しています。特に、最も困難な立場にある子どもたちへの支援に重点を置きながら、世界中のあらゆる場所で、すべての子どもたちのために活動しています。

※ユニセフ国内委員会（ユニセフ協会）が活動する 36 の国と地域を含みます

※ユニセフの活動資金は、すべて個人や企業・団体からの募金や各国政府からの任意拠出金で支えられています

(<http://www.unicef.org>)

■ 日本ユニセフ協会について

公益財団法人 日本ユニセフ協会は、先進工業国 36 の国と地域にあるユニセフ国内委員会のひとつで、日本国内において民間として唯一ユニセフを代表する組織として、ユニセフ活動の広報、募金活動、政策提言（アドボカシー）を担っています。

(<http://www.unicef.or.jp>)